国際交流のハードルを超えて子どもたちを世界へ

グローバルプロジェクト推進機構　JEARN
高木　洋子
URL：http://www.jearn.jp/
キーワード：　国際交流，インターネット，地域協働

１．国際交流はなぜ必要か

学校教育の場には国際交流を妨げる数々のハードルがあり，日本の子どもたちと世界のこどもたちとが共に学ぶ機会や，国際的な感覚を育てる環境を学校につくれないでいる。これは次代を担う人材育成に関わることでもある。

国際理解・交流の問題は，単に教師自身やボランティア団体だけの努力で解決するものではなく，総合的に情報の提供や支援体制を整備したセンター組織と，地域で地元の学校支援をするボランティアによる地域ネットワークの構築，および双方の連携が不可欠である。

２．　グローバルプロジェクト推進機構 JEARN（ジェイアーン）

交際交流を推進するための環境を整備するため,本プロジェクトではポータルサイト及びその支援システムを構築した。（http://www.jearn.jp/）

本システムは国際交流を総合的に支援することを目的としていて，各国際交流の場面や利用者に対して円滑な情報提供・情報交換・ツール提供を行うことを基本方針として開発した。

本プロジェクトにおいては国際交流のポータルサイトの形において情報の提供及び交流支援機能の提供を行っている。その実現にあたり，以下のサブシステムのプログラムを開発した。

(a) 情報提供システム　　・・・様々な海外の交流情報を日本語で利用しやすく提供
(b) ボランティア登録システム　・・・国際交流のインターネット三種の神器を無料で提供
(c) 事例収集システム　　・・・厳選された海外との参考交流事例をタイムリーに提供
(d) FAQ システム　　・・・充実のヘルプデスクで迷子になる心配なし
(e) 翻訳チャット掲示板システム　・・・言葉の心配もこれで解決

これら豊富な機能を使いこなすために操作マニュアルを作成し，ホームページ上に「Help　Desk」として公開した。また，交際交流が初めての先生も簡単に行えるように国際交流パッケージを作成した。
このシステムを利用することによって以下のことが実現できるよう図っている。

(a) 自発的なボランティア登録
(b) プロジェクトベースで企画を動かすイベント支援
(c) 感謝の気持ちを伝えたい・・・画期的な「徳の評価」
(d) 活動の活性化と連携を通したコーディネーター育成

３．実践活動実績

このような JEARN システムを利用して以下の実践活動を行った。

３．１　Dream　School　Video　Conference

2001 年１１月９日（日本時間夜９時）世界の７カ国を結んだ ISDN 回線使用多地点接続テレビ会議を行った。約２００名の中学生・高校生が現在の学校生活から「これからの学校・未来の学校」をテーマに多様な表現で発表し，また次代を生きる仲間としてのつながりを実感した。（http://www2.jearn.jp/fs/37/index.html）

３．２　　環境問題をテーマとしたハワイ州高校生との交流

京都府立城陽養護学校通学高等部は，環境問題について交流学習を行った。

図１．テレビ会議の様子

メーリングリストを活用することで，様々な問題について話し合うことができた。また，テレビ会議後，反省や感想などを教員間で交流することができた。

テレビ会議には，カラニ高校（日本語教員・社会科教員）ハワイ大学（日本語教員・遠隔教育担当）保護者，テレクラス・ハワイ，マッキンリー高校（数学科教員），教育委員会で多地点接続装置（PEACESAT 管理）を管理する担当者，保護者など 10 名近く参加した。

４．実践活動の成果のまとめと，実践活動の問題点・課題

JEARN(グローバルプロジェクト推進機構)は，過去積み上げられた経験やノウハウという人的資源と，ICT を活用した新しい仕組みを連携することにより，これらの障壁を乗り越えて多くの人々に国際交流学習のきっかけを提供しようとしている。

個別の国際交流活動を行ううえでは，はっきりいって JEARN のシステムは必要ない。いる部分としてはホームページ，掲示板，メーリングリストだけであろう。JEARN のシステムは個別の国際交流実践の情報を確実に載せることによってそこから派生する多大な効果が期待できる。先生方に対する JEARN システム利用技術の浸透と先生方の情報の共有化の考え方への意識改革が今後の課題となるであろう。

また，国際交流は先生一人でするものではないはずで，先生が持っていないスキルを学校内あるいは地域から借りてくればよいのである。ひとりで悩まないでみんなと楽しく国際交流しましょうよ，と用意した機能がもっと活発に利用されて特に地域の人達が学校に入りこんで，子供達を指導するのがあたりまえになればいいと事務局では思っている。

さらに，グローバルプロジェクト推進機構 JEARN が，学校や地域ボランテイアとともに「子どもたちを世界へ」つなぐ海外交流支援組織であるうえは，海外の学校・教員・ネットワークとの密接な連携がなければ，この仕事は成立しない。近い将来は，JEARN が海外から学校間交流の日本側窓口として認知され利用されるという期待がもたれる。

５．JEARN 今後の展開

JEARN が次に目指すのは，ちびっこ JEARN サイトである。この E スクエアプロジェクト「国際交流のバリアを超えて，子どもたちを世界へ」のバリアとは，大人側のバリアであって，実は子どもたちの意識は既に世界へ歩き出しているようである。それがまた，JEARN の究極のゴールでもある。